

日本サッカーに ルネサンスは起こるか? (4)

枚方FC 近江 達

枚方FCの創設者にして監督である近江達氏は技術や指導の第一人者であるばかりでなく、サッカーというスポーツの裏面にある文化背景をも深く探求している。その論旨は日本サッカー界、否、日本社会の弱点にまで筆鋒鋭く切り込み、本質に迫っている。「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と喝破する。……昨年9月号より掲載しておりますこの連載は雑誌サッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

スポーツの語源

現代スポーツは、古代ギリシャ、ローマの格闘技からきたものに、球技など近代スポーツと呼ばれる英国からの流れが加わってできた。最近ではアメリカ生まれのものもある。

スポーツという言葉は英国系の方で、気晴らしに楽しむ、という意味のディスポルターレというラテン語からきている。

日本語のスポーツはむしろ運動競技のことである。だが、彼らの場合、それだけではない。日常遊びたわむれるのもスポーツと呼ぶのである。威儀を正した試合も、子供たちがただ遊ぶのも、すべてスポーツ。これは注目すべきことで、彼らのスポーツが楽しそうなものなるほどとうなづける。

われわれの場合、そうはいかない。知育徳育体育、教育の一環として教えられたためにスポーツは神聖であり、真面目にやらないといけない、という気構えだから、いま流行のOBサッカーでさえ、「本当は、こんなお遊

びでなくて、もっと真剣にやらないといけないのだけ」などと言いついて回ったりする。

しかし、「楽しむと真剣にできない」のは、そういう国民性なのか、禁欲的な教育思想に染まりきったためなのか、とにかく日本人の場合であって、欧米人にはどうもあてはまらないような感じがする。

遊びと同じ範疇ゅうに入るから彼らのスポーツは真剣でないか、と言えば、衆知のごとく決してそうではない。

われわれ以上に勝つために全力をあげベストをつくし、本気で相手を叩きのめそうとし、叩きのめされまいとする。その闘争がまた、彼らにとっては楽しくてならないらしい。肉食民族と菜食民族の違いかも知れない。

だが、それでも彼らには「いくらムキになって、必死で戦ったって、スポーツはスポーツ、人生ではしゃせん遊びにすぎないさ」といった区別があり、分別が働いているらしいのである。早い話、ボクシングなどそれぞれ決死の遊びのサイたるものであろう。

日本スポーツの由来

もともと日本には、スポーツに相当するものは相撲しかなかったらしい。江戸時代、いろんな武芸大会がさかんだったが、むしろ今のスポーツとは全く性格がちがう。

武芸が武道に変わったのは、明治の講道館柔道以後のことである。昨年、芸といえば低俗に響きがちで、ややもすると娯楽遊興へ連想が傾くために、到底、武士や戦闘とは結びつかないけれども、当時は、修練で得た技能や術はすべて武芸と呼ばれていた。

武芸十八番などと言っても、江戸時代初期までは、決して生やさしいものではない。他流試合はまるで古代ローマの格闘技ながら文字どおりの真剣勝負。敗北は死か不具を意味した死闘だったから大変である。

ヨーロッパ人によってスポーツがもちこまれたのは明治の文明開花期である。彼らがプレーしていた間は、むしろ本国と同じスポーツだったろう。だが、そのうちに日本人だけでやるようになると、遊びの要素は急激に薄れ、武道にどんどん同調同化していき、やがて体操(今の体育)や部活動として教育の中に組みこまれて、全国に普及する。

こうして完成されて現代にいたっている日本式スポーツ(すなわち体育)は、本家である欧州のスポーツとは少々ちがう。心身鍛錬、人間形成、教育の一環などを看板にかかげ、本体は徹頭徹尾、勝利至上主義で固められている、と言っても過言ではないだろう。

今でも教育関係でよく使われている「文武両道」という言葉の「武」とは、言うまでもなくスポーツを意味している。言葉にうるさい昨今の御時勢を全く抵抗なく大手を振ってまかり通っているのも面白いが、これなど日本スポーツの由来や特質、志向、さらに、それに対する国民の支持などをよく物語っている。

幕末から明治にかけて、白人を一方では畏怖しつつ一方では排他主義からさげすんで、和魂洋才、東洋精神西洋芸といった流行語ができた。芸はさきほど説明したとおりで、技術は向うが優れているから、向うのを利用し、精神はこちらが優秀だからこっちで行こう、という毎度お馴染の手である。

その後も敗戦まで、毛唐という蔑称など日常よく使われた。神国日本とすこぶる冷静に自称公言していた時代だったから、舶来スポーツの日本化から普及の間、優越性が信じこまれていた日本の武道的精神が大いに昂揚力説されて、本来の楽しさが消失してしまったであろうことは想像に難くない。

(つづく)

兵庫県協会からお知らせ

昭和58年度第63回天皇杯全日本選手権
兵庫県大会説明会(抽選会)
▷とき 58年2月12(土) 18:00〜
▷ところ 王子登山研修所
▷お問い合わせ先 兵庫県サッカー協会
☎(078) 232-4647・0753

編集後記

58年正月も天皇杯決勝、高校選手権とビッグ・タイトルで幕が開き、ヤマハと清水東高校がそれぞれ日本一の座についた。考えてみれば、昨年の全日本少年大会の清水FC、全国中学校大会の観山中、国体少年の部の静岡選抜と、少年から大人までのビッグ・タイトルのほとんどを静岡県が奪った。その背景には協会関係者の永年のなみなみならぬ努力がある。我々も負けてはならない。(力)

神戸市社会人運営会議予定 次回 2月17日(木)

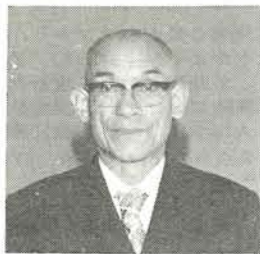
3月17日
いずれも木曜日、18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753
なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



ユ・ハイム



揺れにゆれた1982年は多くの課題を新年に託して慌だしく暮れて行きました。

今年は格別厳しい社会情勢の中で迎えた新年でありまして人には皆新しい年への抱負と覚悟を胸に秘めておられることでしょう。ここに新しい力の湧出が期待され、新年のめでたさがあると思います。

今年は癸亥(きがい:えと)の「みずのと・い」。干支(えと)の上から言うくと還暦に当たり60年の最後の年で、日本史上から反省いたしますと、この前の大正12年(1923年)は関東大震災があり、もう1つ前の文久3年(1863年)は薩英戦争を始めとして多くの事件が勃発(ぼっぱつ)し鎖国制度は崩壊し王政復古、明治維新へと大変革が起りました。亥(がいのしし)は核でありますから、爆発力を内に含んだ年と考えられます。

優勝
記念
少年の部

サッカーの母国イングランド、スコットランドへ遠征

兵庫県高校生選抜、ハーツ(スコットランド)ユースと対戦

昨年10月、島根国体少年の部で見事優勝を成し遂げた兵庫県高校生選抜チームがイングランドとスコットランドに遠征し、スコットランドのエジンバラ市では地元のプロチーム、ハーツのユースチームと試合を行うことが決定した。

これは、国体優勝を記念し、ぜひ海外遠征をさせてやりたいとの兵庫県協会関係者の願いが実現したもので、来る3月25日に日本を出発して途中デンマークのコペンハーゲンを経由し、イングランドのロンドンに行き、ここで高校チームと交歓試合を1試合行つて、3月30日にはスコットランドの首都であるエ

〈兵庫県高校生選抜英国遠征チーム〉

【団 長】前野 正 (県協会常務理事)
【監 督】一北四郎 (県協会技術副委員長・御影工業高)

【コーチ】森田哲郎 (御影高)
山根由雄 (北須磨高)

【主 務】佃幹夫(県協会第2種委員長・六甲高)
石塚哲郎 (鳴尾高)

【選 手】石末龍治(伊丹北高3年) 石田明豊(小野高3年) 上谷等(伊丹西高3年) 小林公平(市西宮高3年) 井上教文(神戸FC3年) 和田昌裕(御影高3年) 関博史(北須磨高3年) 堤康(六甲高3年) 永島昭浩(御影工業高3年) 赤松和洋(御影高3年) 辻勝憲(御影工業高2年) 松井慶憲(福岡高2年) 溝畑哲朗(神戸FC2年) 跡上良二(御影工業高2年) 大迫欽也(尼崎北高2年) 山本雅彦(六甲高2年)



力を貯えよう! 亥年は爆発力を秘めた年

新年あけまして おめでとうございます

神戸市サッカー協会会長 河本 春男

扱て(さて)サッカーについては、今年こそしっかりと力を貯え育てる年にしたいと念願するのでありますが、日本の少年サッカーは諸外国チームに劣らない実力を示しますのに、大人のチーム即ち日本代表チームは世界のレベルに及ばないのは何故でしょうか。先般アジア大会がありました、今一つという成績でした。私が思うのに、攻撃に鋭さが無いことと、キック力が足りないのではないかと。言葉でいうことはやさしいが、これを実行するためには不断の努力と精進がなければできない。それに世界的レベルに達するためには、そのプレーヤーの素質の良さということも大きな要素になろうから、素質のある人がサッカーを志すような環境が必要になろう。プロチームの誕生が期待される声も大きくなりつつある次第です。

サッカーはスポーツの中で人間形成に非常に役立つ要素を備えていると考えているから孫達に奨励しています。サッカーでは常に一歩先んじ一刻早く、タイミングのよい先制を心掛けないと勝てない。私は体が小さいから何時も相手の機先を制する心掛けを忘れなかったが、20年もサッカーをや、青春をかけたお蔭で私の性格にまで成長し、実業の世界でも、タイミングのよい先制を実現して、我ながら驚くことがある程です。

サッカーを志される皆さんが文武兼備の学徒として成長されることを祈ってやみません。今年は何かにつけて力をため将来に備えることに心掛けましょう。

ご健康とご多幸を祈り新年をお祝い申し上げます。



△ 島根国体少年の部に優勝し、英国遠征のプレセントを受けた県高校生選抜。

月 日	地 名	現地時刻	摘 要	宿 泊 地
1月10日	大阪国際空港	17:00	大阪国際空港発ロビー、日本航空カウンター前集合	
1月11日	ロンドン	19:20	日本航空(B-747)にて成田へ。	
1月12日	ロンドン	20:30	スカンジナビア航空(DC-10)にて北極線由コペンハーゲンへ。	機 中
1月13日	コペンハーゲン	05:50	午後、専用車にてコペンハーゲン市内観光。午後：自由行動。 (昼食：市内レストラン、夕食：ホテル)	コペンハーゲン
1月14日	ロンドン	09:20	スカンジナビア航空(DC-10)にてロンドンへ。	
1月15日	ロンドン	10:10	午後、専用車にてロンドン市内観光。 (朝食：ホテル、昼食：市内レストラン、夕食：ホテル)	ロンドン
1月16日	ロンドン		午前：自由行動、午後：サッカー交流試合。 (朝食：ホテル、昼食：市内レストラン、夕食：ホテル)	ロンドン
1月17日	エジンバラ	10:00	特急列車「THE ABERDONIAN」にてエジンバラへ。	
1月18日	エジンバラ	14:51	午後小ホテルへ(朝食：ホテル、昼食：弁当、夕食：ホテル)	エジンバラ
1月19日	エジンバラ		午前：自由行動、午後6:00 キックオフ(対ハーツユース) (朝食：ホテル、昼食：市内レストラン、夕食：ホテル)	エジンバラ
1月20日	ロンドン	15:40	午前：エジンバラ市内、郊外観光。英国	
1月21日	ロンドン	16:50	英国航空(Trident)にてロンドンへ。午後ホテルへ。 (朝食：ホテル、昼食：市内レストラン、夕食：ホテル)	ロンドン
1月22日	ロンドン		終日自由行動	
1月23日	ロンドン	11:10	(朝食：ホテル)	ロンドン
1月24日	ロンドン	13:55	スカンジナビア航空にてコペンハーゲン乗換え、帰国の途に。	
1月25日	成田	16:55	成田にて日航機に乗換え大阪へ。	機 中
1月26日	成田	19:00	税関手続終了後解散。	
1月27日	大阪	20:15		

本紙は右記の店にもあります

有宏スポーツ

東灘区御影本町4丁目11-9 ☎078(821)8449
阪神御影駅南側西へ30m

灘スポーツ

灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671
市バス水道筋6丁目上る100m 東側

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895
プレザ・ショップ、トーアロード店 ☎078(391)0896
ドルチェ・マック、センター街 ☎078(332)0141

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

オウビ

中央区琴緒町4-4-5 ☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸経理専門学校斜め前(田上ビル1階)

スメラ

湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

加茂トアロード

中央区三宮町3-8-8 ☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100m

マヤスポーツハウス

灘区森後町1丁目8-8 ☎078(841)8811
国鉄六甲道駅北 兵庫信用金庫六甲支店山側

ヤノ運動用品

本 店 中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121
ファイブ店 中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

写真はマーカム11・ケリー

¥4,300
¥6,000